

○事業所名	東浦町立なかよし学園		
○保護者評価実施期間		2024/10/21	~ 2024/11/5
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数)
○従業者評価実施期間		2024/10/16	~ 2024/10/25
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月26日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地方公共団体が運営している事業所なので、町内保育園や小学校、特別支援学校との連携がとりやすく、お子さんの様子や保護者に合わせた移行支援を行っている。	日頃のお子さんの様子を保護者と共有しながら、保護者の意向も大切にし、町内保育園への移行を進めている。また、お子さんが安心して保育園生活を開始できるよう、移行先の保育園への情報提供や助言を行っている。 保護者の意向に合わせた就学先の見学、授業体験が行えるよう関係機関との連絡を密にとっている。	今後も保護者の思いを聞きながら、一人一人のお子さんに合わせた移行支援が行えるようにする。
2	親子通園クラスと単独通園クラスがあり、単独クラスは年齢に応じて週に1、2回実施している。保護者と職員がコミュニケーションをとりやすく、連携を密にとることができる。また、職員間の関係性も良く、報告、連絡、相談を細目に行いながら、クラス間で助け合い、お子さんの状況を共有しながら、支援を進めることができている。	毎朝、クラスごとにカンファレンスを実施し、療育実施内容について確認をしている。療育終了後には、日々の子どもの姿を振り返り、一人一人のお子さんの状況に応じた支援方法を考えている。	保護者とのコミュニケーションを大切にしながら、お子さんの小さな変化にも目を向け、丁寧な支援を行っていく。
3	保育園と併設されており、保育園児と同じ園庭で遊ぶことが、子どもの成長にとって良い刺激となっている。 園庭が広く、固定遊具で体をおもいっきり動かして遊ぶことができる。また、園庭には大きなクスノキやドングリの木があり、木のみを拾ったり、木陰で遊ぶなど、子どもたちにとって遊びやすい環境が整っている。	園庭の広さだけでなく自然豊かな環境である。 園庭に落ちる木の実を拾って遊びに取り入れたり、春には、畑や花壇に集まる昆虫を捕まえ楽しめるよう、環境整備を行っている。	引き続き、子どもたちが楽しく遊べるような園庭環境を整えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設が老朽化している。	旧園舎側は古く、療育施設用に建てられていない。	旧園舎側が老朽化しているため、お子さんや保護者が利用しやすいように構造を工夫し、過ごしやすい環境を整えている。修繕が必要な場所については、役場と再検討している。
2	保育園との交流や他の子どもと活動する機会に対する考え方について、保護者と職員の間で差が見られる。	交流に対する考え方の違い。	交流の方法については、全体での集いや面談時に、様々な方法があることを保護者に伝えていきたいと考えている。
3	3歳児は全員親子通園を実施している。	3歳児として親子通園だけでなく、単独通園の必要性を感じている。	3歳児は、今までの親子通園を経て、単独クラスへ移行できるよう職員間で検討し、令和7年度より3歳児単独通園クラスを設置予定。